

2014~2015

会 報

R I 2720地区



# The Hitoyoshi Rotary

人吉ロータリークラブ

通 算 2845回  
2015年5月22日  
第43回例会  
毎週金曜日

## ロータリーに輝きを

Light Up Rotary

2014-2015年度 R I 会長  
ゲイリー C.K. ホアン

会報編集 石蔵尚之委員長

人吉市九日町30・清流山水花 あゆの里 ☎②2171

◀ 例会場

事務局 ▶

清流山水花 あゆの里内 ☎②6665 ☎②6505

[URL] <http://www12.ocn.ne.jp/~hrc/>[E-mail] [hitoyoshi-rc@mocha.ocn.ne.jp](mailto:hitoyoshi-rc@mocha.ocn.ne.jp)

### 人吉RC創立5/25記念例会

点 鐘 鳥井正徳会長  
歌 唱 ッグリーダー 山田仁法委員長  
国 歌 「君が代」  
R S 「我等の生業」  
司会・進行 水野プログラム委員長

#### 会長の時間

会長 鳥井正徳

5月25日は、人吉RCの創立記念日です。通算2845回目の本日の例会は、その記念日に最も近い日でございます。御存知の方も多いと思いますが、1957年（昭和32）5月25日に創立記念総会が開催され、熊本県では、熊本RCに次ぐ2番目のクラブとしてチャーターメンバー21名で誕生しています。チャーターメンバーでご健在の方はおられないようです。創立当時は我々が想像できないような御苦労もあったようですが、以来58年間歴代会長の指導力と会員の強い絆で、あらゆる困難を乗り越えて、地域の発展・国際交流の推進に多大な貢献をしいて来られました。心から敬意を表したいと思います。

本日は、1970年（昭和44）に入会され、45カ年に亘り人吉RCの会員としてその発展に尽力され、暖かく見守って来られました伊久美寛志パスト会長に記念卓話をお願い致しました。しっかり拝聴し、今後のクラブに役立たいと思います。よろしくお願い致します。

18日と21日には、次年度のクラブ管理運

営部門の各委員会が開催されました。延岡次年度会長の運営方針に基づき、各委員会の方針・目標、具体的活動が話し合われました。各委員会共やる気のある話し合いが行われ、次年度に期待するところ大でした。

先週の例会で、アメリカインディアンの教えを上げ、幼少の頃育った環境がその子の成長にどのような影響を与えるかについて申し上げましたところですが、19日の新聞・テレビは、横浜市で高校1年の男子生徒が登校前の制服姿のまま、母親と祖母を刺殺したという事件を大きく報道しました。「注意されカッとなった」と言っているそうですが、カッとなったら手のつけようのない子どもが大きな問題となっています。

そこで子どもの成長には学力が重視される社会ですが、学力の捉え方について少し述べてみたいと思います。

学力には目に見える学力（テストの結果）と目に見えない学力があります。人間の一生から見ると、点数となって出る見える学力よりもむしろ目に見えない学力の方が何倍も大きく大事であると言われていています。目に見えない学力をつけるには、幼少の頃から、例えば「体を鍛える（歩く）。好き嫌なく食べる。いろんな経験をする。根気強く最後までやり抜く。誰とでも話しができる。優しさがああり、人を馬鹿にしない。読書をする。いい意味での負けず嫌い。自分で考えようとする。」などありますが、殆ど親が関係します。これらの力を幼少の頃から力をつけ太くしておく必要があります。本物の学力は学校で学んだことを実生活に活用し生かすことですが、この見えない学力が細いと自信がなくなったところに注意でもされるとどうしていいかわからず思わぬ行動に出てしまいがちです。目に見えない学力が太い子どもに親の励ましや愛情が加わって育った子どもは、自信

を持ち、自分の進むべき道をなんとか探し出します。これからは、目に見える学力は勿論、目に見えない学力をつけることに親や地域ががんばる必要があります。

先日或る小学校の若い先生が言っていました。「うちの子に給食を無理やり食べさせないでください」「子どもは疲れて帰ってきます。宿題は出さないでください。」先生方も悩んでいます。

## 幹事報告

幹事 有馬宏昭

### 【理事会の承認事項】

- ①小山康直ガバナーからのネパール地震義捐金  
お願いの件、会員一人1,000円の支援を行い、6月に会員に請求することを承認。
- ②熊本県手をつなぐ育成会人吉大会（7月25日開催）の名義後援及び協賛広告5,000円を承認いたしました。

### 【連絡事項】

- ①韓国伝統芸術舞踏in人吉公演実行委員会から最終決算書が届いています。  
→鳥井会長にお渡しします。

### 【回覧物】

なし

### 【例会の変更及び取り止め】

- 熊本東南RC6/17→18:30～慶祝会のため  
場所「仲むら」
- 熊本北RC6/24→18:30～慶祝会のため  
場所「麦菜館」
- 八代東RC6/18→18:30～創立26周年記念例会  
並びに歳祝いため 場所「八代初作パレス」
- 〃 6/25→クラブ定款に基づき休会
- 熊本東RC6/30→19:00～歳祝い家族例会ため  
場所「松屋本館」
- 熊本西RC6/16→クラブ定款に基づき休会
- 〃 6/30→18:30～最終例会のため  
場所 ニュースカイ25階「ブランミュール」

## 人吉ロータリークラブ細則の追加 人吉ロータリークラブ奨学基金委員会規則

会長 鳥井正徳



人吉ロータリークラブ奨学基金委員会設立による人吉ロータリークラブ細則第15条の後に追加される第16条、新たな人吉ロータリークラブ奨学基金委員会の規則について理事会で協議をし、承認いたしました。

本日皆様全員にご了承を賜りたく、先々週に資料を送付いたしました。十分読んで頂いたことと

思います。本来ならば片岡社会奉仕委員長が説明をすることになっておりましたが、都合で欠席となりましたので私の方で説明させていただきます。～説明～

承認を拍手で採決（全員賛成）  
ご承認ありがとうございました。

## 出席率報告

委員長 村山能史

本日の出席率			
会 員 数	64名	74.58%	
出 席 免 除	5名	5 / 8 出席率	83.05%
欠 席 者 数	15名	補 填 数	10名
出 席 者 数	44名	修正出席率	100%

\*届け出欠席 岩井・内藤・堤正・尾上・堀川・漆野・宮原・片岡  
延岡・竹長・大賀・岩本・戸高・和田・外山

\*出席免除会員(b) 増田、愛甲、高山、丸尾、釜田

\*メイクアップ

増強セミナー；中川 クリーン人吉；宮原・宮山・下田・竹長  
人吉RAC例会；安達・武末・平田・田上・本田

## 【R情報委員会】

### 人吉ロータリークラブ創立記念卓話

人吉RCと私

伊久美寛志会員



私がロータリーを初めて知ったのが、昭和32年5月中旬のある日、道路沿いの電柱に旗を取り付けている人達でした。人の話で「人吉にロータリーが出来るげな」とのことでした。その次に出会ったのが創立10周年

事業の駅前に建立された「10周年記念塔」の時計の電源工事の見積もりと工事打ち合わせで例会終了後の13時30分に肥後銀行3階に呼び出された時でした。それから3年後の昭和44年10月17日に手塚病院の手塚良彦院長、出水林業の桐原達郎専務取締役の3人が入会いたしました。その年は創立13年度で、会長は永国寺の紫安達朗氏、幹事は矢田商店の矢田太氏でした。その年の入会者11名退会者7名で、42名の会員数でした。その内チャーターメンバーは泉万次郎氏、釜田元次郎氏、岡本大蔵氏、堤貞雄氏、堤治助氏、山口宏氏の6名の方々でした。

例会場は肥後銀行の3階でした。札の辻角にありました「ヤギレストラン」と、堤兼悟氏の食堂からそれぞれ出前でしたので、エレベーターもないので運ぶのが大変でした。それにSAAは点鐘が鳴り食事が始まって、遅れて出席する会員や

突然の来訪者のため食事をとることは出来ません。年度内に何回かは喰いはずれがありました。例会時の服装については、ほとんど背広にネクタイ着用でした。当時36歳でしたので現場で仕事をしていて作業着姿でしたので、急いで着替えに帰宅して例会に出席していました。又、ご飯の量が少なくて帰りにラーメンを食したものでした。

現在では分区単位で行なわれていますIMはIGF（インターシティーゼネラルフォーラム）と云っており、県下のRCが一緒になって勉強会をしたものでした。

ロータリーの発祥は職業奉仕であるとフォーラムで必ず教えられました。それは1909年にシカゴRCに入会したロータリーの基礎にサーヴィスをすえたアーサー・フレデリック・シェルドンであります。廣畑富雄第2700地区PGの著書によりますと、サーヴィスは奉仕と訳されているが、意味が違います。「サーヴィス」は相手のことを思い、相手のためになるような行為、相手を慮った行為です。「奉仕」は仕え奉ることとは概念が同じではありません。サーヴィスの心がけはどんな時でも大切に、例えば家庭でも大切に。相手の事を思う行為は良い家庭、幸福な家庭につながります。

ビジネスでもサーヴィスの心がけはシェルドンの言葉を借りれば、永続的な顧客を得る道であり、信用を増して“繁栄への道”です。ですからHe profits most who serves best “最もよくサーヴィス（奉仕）する者、最も多く報いられる”というモットーが生まれるのです。彼は自分のことしか考えない行為、サーヴィスを心がけない行為、それは一時的には良くても“破滅への道だ”と断言します。

1905年に創立されたシカゴRCで最初の綱領が起草されたのが1906年でした。全部で10ヶ条になっており、第一条は会員の業務上の利益の振興であり、第二条は親睦をうたい、第三条で会員をファースト呼び合うこと、第四に和気あいあいたる雰囲気を作るため歌の合唱をすること。今日ロータリーソングとして公式に歌曲集に収められているのは144曲ありますが、ロータリー独自の歌集は46曲にすぎません。第5条は役職は1年限りのルールであります。第6条が、会員相互の職業上の扶助にありました。2週間に1回の定例の会合で職業上のいろいろな問題を協議し、助言等を行い、毎回、互助の実績である取引高の報告まで行わなければならないとなっています。これを実行するために1業種1会員の制度が生まれたのであります。第7条が職業によって得られた所信をクラブ例会で発表することを義務付けました。これが日本では卓話という形になっています。第8条は、例会欠席のことで、連続4回ということは月2回ですから2ヶ月ということ

になりますので資格を失うとあります。第9条は、時間厳守であります。ロータリアンは互いに多忙の身でありますので会合は定刻に開くということです。第10条は、会員名簿に写真入りを作製することでした。最後の10条は、例会で食事をとる慣例が始まったということです。

世界中のロータリーの慣例の殆どは、シカゴRCの会員の独創で作られた慣に沿っていることがわかります。ただ1つのことだけが違っていますが、例会を隔週でなく、毎週1回にすることに変更になった位であります。これは1909年に創立された全米3番目のオークランドRCでは、毎週例会を行ったのが始まりであります。つまり初期の頃は例会開催は各クラブ自由な決定が出来たのであります。

1922年のロス・アンゼルス国際大会で、それ以降に創立されるRCに対して（標準クラブ定款）の採用を義務付けた時、例会は毎週1回開催しなければならないことになりました。

世界中で隔週例会を温存するRCは150程度とのことであります。

#### 【ニコニコ箱委員会】 委員長 平田フク

- 鳥井会長 伊久美パスト会長、創立記念卓話有り難うございました。国際ロータリーの歴史を初めて具体的に知ることができました。
- 安方会員 早くも1カ月が過ぎました。先日当行の新本店も無事落成することが出来ました。皆さまに感謝致します。今後共どうぞ宜しくお願い致します。
- 田上会員 人吉RC創立記念例会お慶び申し上げます。所用で早退いたします。
- 伊久美会員 創立記念日に卓話をさせていただきました。
- 創立記念全員スマイル

#### 【米山記念奨学委員会】

- 中川会員 本日は創立記念日に伊久美パスト会長に卓話をお願いしたところ、私の苦しい気持ちを察して快く「いいよ!!」と言って戴き感謝しております。ありがとうございました。
- 伊久美会員 米山基金に特別寄付をいたします。

点 鐘 鳥井正徳会長

5月は特別月間の指定はありません。

ロータリーは、各地のクラブにおいて地元のニーズに応じた独自の活動を行う一方で、世界的規模においても「重点分野」を定めてできるだけ大きな活動成果をもたらす努力をしています。「重点分野」とされているのは、平和と紛争予防／紛争解決、疾病予防と治療、水と衛生、母子の健康、基本的教育と識字率向上、経済と地域社会の発展です。これらを強調するため、2015年7月から、特別月間の内容は、がらりと変わります！

小山康直ガバナーメッセージ

『花は盛りに』

「花は盛りに、月は限なきをのみ、見るものかは。」吉田兼好が徒然草第137段にしたためたこの思いは、私たち日本人が自然を愛でるDNAとして持っている美学ではないでしょうか。桜花爛漫と咲き誇る姿もさることながら、散ってしまった桜の木のわびしい姿、そのどちらを見ても風情を感じるのが私たち日本人ではないでしょうか。それぞれの季節が最高の形を誇示している姿のみならず、季節が移ろいゆく姿には、人生の無情が映し出されており、自然をながめ、我とわが身のこれまでを振り返ってみてしまうものです。

全盛期よりも、ひとときが過ぎて、余分な部分さがざりとされ、昇華された季節の精が私たちに語りかけてきます。そのエッセンスは私たちの感性の一部となり、私たちの人格そのものとなっていると思います。

大分のソメイヨシノは3月21・22日、わが地区の地区大会の到来を告げ、私たちを充分満喫させてくれた後に、自らが時期を悟ったかのように散っていきました。自然の桜も人間の業の地区大会もあつという間に過ぎ去ってしまったのです。

今年は、こんな自然な時の流れを遡るかのような初めての体験をすることになりました。日本は四季の到来が地方によってずれています。ひと月くらいの違いがあるでしょう。桜前線の北上という言葉もニュースで見聞きしていましたが、知識の範囲内であり実感として持っていたものではありませんでした。それは、4月18・19日、第2520地区の地区大会で盛岡市を訪れた時のことでした。東北新幹線の車窓から土手に広がる満開の桜が目にとびこんできたのです。大分では一ヶ月前だった満開の姿に、四季が一巡したからではなく、時の流れが後戻りしたような感覚になりました。私にとっては衝撃でした。なんとなく不思議な感覚を覚えながら、山口淑子ガバナー主宰による地区大会本会議に参加しました。随所におもて

なしの心がうかがわれるすばらしい運営には地区の実行委員会の皆さんの息遣いすら感じて、深い感銘を受けました。

本会議場に身を置いて、また不思議な感覚が私を襲いました。すでに一ヶ月前に終了した私たちの第2720地区の、地区大会の本会場に舞い戻った感覚にとらわれたのです。地区大会で細かい部分まで気を遣いながら走り回っていた自分たちの姿が脳裏に鮮明に蘇ってきました。それでいて、あの熱狂的な喧噪、当日の時間とは、距離を置いて冷静に眺めている自分がいるのです。地区大会の大きな流れを追体験していたのです。大会当日、こうしておけば良かった、ああすべきだったなど、そのたびに後悔し続けていたことなどは、見事にそぎ落とされていました。お互いを信頼し一つの目的にまとまって取り組む、利害関係を越えた共同作業こそロータリアンたるゆえんです。それを地区大会という場で見事に成し遂げたのです。このことはわが第2720地区だけではない、第2520地区でも同じだと、その場において初めて実感できました。地区を越えロータリーとしての行事を通して、ロータリーが普遍的であることを感じ、ロータリーのすばらしさを知る機会となったのです。これこそ将に、私にとってのかけがえのない心に残るロータリー体験でした。

一つの目的のために、奉仕の心をもってロータリアンが協力して活動する、その過程で真の親睦が生まれ、更に真の友情に醸成され、友情の輪が広がっていく。その友情をロータリーの行事を越えて、地域で必要とされている課題解決に向かわせなければなりません。地元地域の声なき声に耳を傾け、今、何がニーズとして助けを求められているのか見つけ出しましょう。そうすれば、私たちはロータリアンです。専門職の代表者たちです。奉仕活動するノウハウは持っています。躊躇せず第一歩を踏みだしましょう。

ロータリーを輝かせるために。

